

開花情報

2021. 7. 26 撮影

サルスベリ(百日紅)



ミソハギ科 サルスベリ属の落葉中高木。
中国南部原産で、葉は通常2対互生、対生になることもある。
花は紅の濃淡色または紫・白色で、円錐花序になり、がくは筒状で6裂、花弁は6枚で縮れている。果実は円い実で、種子には翼がある。開花期は7月下旬から10月上旬。
苑内各所で見れます。

アベリア

スイカズラ科 ツクバンネウツギ属の半常緑低木。
排気ガスや病害虫にも強く生命力を感じさせる樹木。
中国原産のシナツクバネウツギとアベリアユニフローラの交配種。日本へ渡来したのは大正時代末期で、花期が長く、丈夫な性質を持つことから、東京オリンピック以後の緑化ブームを契機に全国へ広まった。現在でも多くの街路や公共の緑地、マンション等の生垣や植え込みに植栽される。
開花期は6月から初冬。さんぽ道園場内で見れます。



ルドベキア



キク科 オオハングウソウ属。
北米に30種ほどが分布している一・二年草、または多年草です。7～10月にかけて黄や、赤茶、黄色に赤茶の模様の入った花を咲かせます。日当たりと水はけのよい場所を好み、病害虫にも強い丈夫な植物です。草丈は40～150cm。
さんぽ道園場入口で見れます。

キョウチクトウ(夾竹桃)



キョウチクトウ科 キョウチクトウ属の常緑小高木。
インドや中近東が原産で、中国を経て江戸時代に渡来。
乾燥、大気汚染、潮風に耐える強靱な性質を持ち、病害虫の被害も少ないため、公園や庭園のみならず、海岸や幹線道路沿い、工場、高速道路の分離帯等、条件の厳しい場所の緑化に重宝される。広島や長崎では原爆の被爆後も開花し続け、復興のシンボルとなった。
開花期は6～9月。さんぽ道園場内で見れます。

フロックス

ハナシノブ科 クサキョウチクトウ属の落葉低木。
北アメリカ及びシベリアを原産とする多年草。
仲間は67種が知られて、草丈1mを超えるものから、岩場に張りついてクッション状に育つもの、常緑、落葉、一年草、多年草と、非常に変化に富んで、花が美しいので観賞植物として多くの種が栽培されています。日当たりと水はけのよい花壇に適します。開花は6月中旬から10月中旬で、開花期間が長いことや、花後に切り戻せば再度開花することなどから人気が高い。花はシバザクラのような形で直径は2～3センチ、ピンク・白・紫・赤紫など。ピラミッド状に集まって咲く。花の香りはそれほどでもない。ターミナル進入路付近で見れます。



ファウンテングラス



本社社屋東側花壇で見れます。

お問い合わせ

久留米市田主丸町地徳3558番地1
内山緑地建設株式会社 総務部
0943-72-2138(平日のみ8:00～17:00)

さんぽ道ホール
0943-72-4580(10:00～17:00)
[検索【楽天市場 ガーデンショップさんぽ道】](#)